

新聞「1票」にどう生かす

八学短大生が 本紙教材に授業

八戸学院短期大学ライフデザイン学科は、学生に社会への関心を持ってもらうと、新聞記事のスクラップ帳づくりを授業に取り入れている。8日は東奥日報社の雪田知宏読者部長が同短大を訪れ、東奥日報を教材に新聞の制作過程や特徴を説明。学生たちは就職活動を、目の前の参院選で1票を託す先を選ぶための情報収集に、新聞を生かす方法

を学んだ。

茂木典子教授(ライフデザイン学科長)が担当する、就職など人生設計を考える科目の一環。学生18人が新聞から気になった記事を毎日1本選び、感想を記して一冊にまとめている。

学生たちはこの日、各ページの特徴や、選挙時と通常の新聞制作過程の違いなどの説明を雪田部長から受けた。茂木教授は本紙の「声は届くか '16参院選あおもり」で大学生の奨学金を扱った回を紹介し「いま



学生に講義する茂木教授(左)

自分たちの将来を変えたい
めには、1票を投

じること。考える材料は新聞にたくさんある」と学生たちに呼び掛けた。

増田紘人さん(1年)は「政策を多角的に検討するとき、新聞を活用できると思った」、佐藤美咲さん(同)は「各ページの特徴が分かり、スクラップする際に興味ある話題が探しやすいな」と話した。(新村菜穂)